

第3部 地区別計画

1 釜石地区

地区の概要

区 分	釜石地区	全市に占める割合 (全市)
面 積	約 14km ²	約 3% (440.34km ²)
令和2年人口	4,792 人	14.8% (32,374 人)
対平成22年減少率	△ 31.5%	(△ 19.4%)
地域高齢化率	45.6%	(39.8%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



釜石地区 / 新浜町1～2丁目、東前町、魚河岸、浜町1～3丁目、港町1～2丁目、只越町1～3丁目、天神町、大只越町1～2丁目、大町1～3丁目、大渡町1～3丁目、鈴子町、駒木町、松原町1～3丁目、嬉石町1～3丁目、大平町1～3丁目、大字釜石第16地割

地区の特色

釜石地区の東部は、戦後の復興事業として県内に先駆けて、道路や公園などの都市基盤整備が進められてきた地区であり、当市の中心的な役割を担ってきた歴史のある市街地です。

東日本大震災では市庁舎や消防庁舎、市民文化会館、市営駐車場など、多くの公共公益施設が甚大な被害を受けましたが、大多数の市民の声を踏まえ、安全面を最大限に配慮しつつ、市庁舎を配置するなど引き続き釜石の「拠点」としており、市街地を中心に復興公営住宅が18棟完成しました。

復興公営住宅には、市内・市外各地からの居住者が混在しており、新しい地域コミュニティの形成が必要となっています。

また、釜石地区は大型公共的施設等が存在し、生活環境に恵まれていることから、家族に頼らなくても暮らせるため、復興公営住宅住民の高齢化率は非常に高く、独居高齢者等が増加傾向にあります。

地域の主要な課題

- ・既存町内会住民と復興公営住宅住民の融和・連携
- ・地域活動の持続化
- ・高齢者の居場所づくり・閉じこもり予防
- ・単身高齢者世帯の増加
- ・見守り体制の強化
- ・安心・安全の確保
- ・中心市街地としての魅力向上

基本方針

住民一人ひとりが元気で輝くまちづくり

基本目標

「声をかけ合い」「助け合い」「支え合える」まち

地域による取組（自助）

- ・町内会活動・復興住宅自治会活動、地域行事への積極的な参加
- ・健康寿命延伸のための自主的取組（いきいき 100 歳体操*及び各種サロン活動への積極的な参加）
- ・お隣さん同士・ご近所の交流（声掛け・見守り等）
- ・復興公営住宅を中心とした三防（防孤立・防災・防犯）を目的に行う見守り活動

協働による取組（互助・共助）

- ・住民主体の生活支援サービス（買い物代行、ごみ出し支援）の提供
- ・地域会議を本部とした小学生の見守り活動の実施
- ・地域のコミュニティ形成（地域行事・サロン活動・環境整備活動など）
- ・地域交流イベント等の実施 実行委員会の設置（もちっこまつり in 東部地区）

行政による取組（公助）

- ・地区センター会議の開催による地域の福祉的課題解決に向けた取組
- ・多様なコミュニティ参画機会の提供（公民館事業等の実施、自主活動団体などの支援）
- ・いきいき 100 歳体操普及のための活動支援

多世代の参画による地域活動

- ・賑わいイベントの実施 「みなとかまいし絆づくり交流会～もちっこまつり in 東部地区～」
- ・定期的な公園等の清掃
- ・郷土芸能の継承

2 平田地区

地区の概要

区 分	平田地区	全市に占める割合 (全市)
面 積	約 26km ²	約 6% (440.34km ²)
令和2年人口	3,533 人	10.9% (32,374 人)
対平成22年減少率	△ 8.4%	(△ 19.4%)
地域高齢化率	32.4%	(39.8%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



平田地区 / 大字平田第1～9地割、平田町1～3丁目

地区の特色

平田地区は、上平田ニュータウン町内会、上平田町内会、平田町内会、尾崎白浜町内会、佐須町内会の5つの町内会により構成されています。

本地区には、平田埋立地があり、沿岸南部クリーンセンター、岩手大学三陸水産研究センター、岩手県水産技術センター等多くの公共施設や研究機関等が立地しています。

また、国道45号沿いには平田総合公園が整備されており、広く利用されています。

震災後に建設された平田地区生活応援センターでは、仮設住宅のコミュニティから立ち上がったボランティア団体やサロン活動が盛んに行われており、高齢者の居場所づくりや独居高齢者の引きこもり防止に重要な役割を担っています。

また、地区内及び近隣には、こども園、小学校、中学校、高校があり、小中学校では、世代間交流事業や介護施設等でボランティア活動を行うなど、地域住民と交流の機会が多いことも特色の一つです。

地域の主要な課題

- ・地域コミュニティの維持・継続
- ・高齢者の居場所づくり
- ・交通弱者への対応
- ・安心・安全の確保

基本方針

みんなで仲良く暮らし、高齢者に優しい地域

基本目標

全ての人が健康で安心して暮らせるまち

地域による取組（自助）

- ・住民同士の交流（あいさつ・声掛け・見守り）
- ・町内会活動、地域交流行事等への積極的な参加、世代間交流の実施（園児・小中学生との交流事業）
- ・健康寿命を延ばすため、個々が健康づくりに取り組む（健康教室・サロン活動への参加など）
- ・地域公共交通の利用
- ・避難場所の確認、避難訓練等の実施

協働による取組（互助・共助）

- ・コミュニティ形成のための事業の実施（地域交流行事・サロン活動・環境整備活動など）
- ・高齢者の見守りの実施
- ・郷土芸能・行事の継承
- ・車を持たない高齢者の移動支援
- ・災害時要援護者の支援

行政による取組（公助）

- ・地域課題の抽出・解決に向けた取組
- ・多様なコミュニティ参画機会の提供（公民館事業の実施、団体・グループ等の活動支援、地域交流行事・活動の支援・情報提供）
- ・住民の健康づくりをサポート
- ・地域公共交通の維持運用
- ・災害時の避難者対応など

多世代の参画による地域活動

◎世代間交流事業

- ふれあいサロン・新春お楽しみ会等（地域住民）
- お月見ふれあい会（地域住民と平田こども園）
- 平田公民館まつり（地域住民・園児・小中学生等）
- 大平中学校ふれあい学習会（地域住民と大平中学校）

◎公民館まつり（作品展示・地域交流）

◎新春お楽しみ会（地域交流等）

3 中妻地区

地区の概要

区 分	中妻地区	全市に占める割合 (全市)
面 積	約 6km ²	約 2% (440.34km ²)
令和2年人口	3,968 人	12.3% (32,374 人)
対平成22年減少率	△ 19.0%	(△ 19.4%)
地域高齢化率	38.9%	(39.8%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



中妻地区 / 千鳥町1～2丁目、中妻町1～3丁目、八雲町、上中島町1～4丁目、源太沢町1～2丁目、住吉町、新町、礼ヶ口町

地区の特色

中妻地区は、釜石地区の西隣に位置する市街地で、中央部を国道が通り、住宅地のほか商業施設、工場、官公署等が立地し、労働、買い物、食事、通院、諸手続等ができる利便性の高いエリアであることから、人の行き来が多い地区です。

また、5棟の復興公営住宅が整備され、東日本大震災で被災された方々が生活の拠点を移しております。

交通面では、バスの便にも恵まれているほか、三陸縦貫自動車道のICがあり、釜石市中心部への玄関口として、交通の要所となっています。

一方で、大雨時には冠水する地区が固定化していることや、日本海溝・千島海溝沿いの最大クラスの津波による津波浸水想定において、新たに中妻地区の一部で津波の浸水が想定されるなど、防災対策が強く求められています。

地域の主要な課題

- ・安全、安心の確保
- ・コミュニティの維持
- ・見守り、支え合いの充実
- ・地域防災力の向上・防災対策

基本方針

皆でつくる 安心・安全な 笑顔あふれるいきいき地域

基本目標

- ・ 安全な生活環境を整え、安心して暮らせるまちづくり
- ・ 健康でいきいき暮らせるまちづくり

地域による取組（自助）

- ・ 各種活動への自主的な参加（町内会活動、地域交流活動、公民館事業等）
- ・ 隣近所との交流（あいさつ、声掛け等）
- ・ 防災意識の向上（避難場所の確認、避難訓練への参加等）

協働による取組（互助・共助）

- ・ 地域コミュニティによる事業の実施（町内会活動、環境整備事業等）
- ・ 自主活動グループの活動継続、新たなグループの結成
- ・ 見守り隊や住民同士による見守り活動の継続実施
- ・ 自主防災組織の結成

行政による取組（公助）

- ・ 地域課題の抽出と課題解決に向けた取組
- ・ 公民館活動の実施（外出機会の提供、自主活動グループの活動支援、公民館だよりによる啓発、情報提供）
- ・ 様々な相談機会の創出（健康サロン、随時の相談対応等）
- ・ 防災意識の醸成

多世代の参画による地域活動

- ・ 映画祭
- ・ 防災マップ作り
- ・ 合同ラジオ体操
- ・ ミシンサポーター
- ・ 学校行事への参加

4 甲子地区

区 分	甲子地区	全市に占める割合 (全市)
面 積	約 75km ²	約 17% (440.34km ²)
令 和 2 年 人 口	6,066 人	18.7% (32,374 人)
対平成 22 年減少率	0.33%	(△ 19.4%)
地 域 高 齢 化 率	33.7%	(39.8%)

栗橋地区

小佐野地区

唐丹地区

鶴住居地区

釜石地区

中妻地区

平田地区

甲子地区

基本方針

みんなで支え合う持続可能な甲子づくり

基本目標

地域で助け合い人に優しく安心して 将来に希望を持てるまち

地域による取組（自助）

- ・町内会、老人クラブ、自主活動等へ積極的に参加
- ・地域行事、郷土芸能などへ積極的に参加
- ・近隣住民への気遣い（声かけ、見守り等）
- ・いきいき100歳体操や健康講座等への参加

協働による取組（互助・共助）

- ・地域コミュニティを活用した事業実施（地域交流事業、環境整備等）
- ・地域行事、郷土芸能の継承
- ・住民による地域のあり方を検討
- ・住民同士の見守り活動（声かけ、見守り等）
- ・災害時を想定した地域ごとの取組検討

行政による取組（公助）

- ・地域課題の抽出及び問題解決への取組
- ・公民館事業、保健・福祉事業の案内及び実施
- ・地域行事、郷土芸能活動への支援
- ・地域コミュニティ形成への支援
- ・各種災害時の避難行動等の情報提供

多世代の参画による地域活動

- ・松倉神社まつり、みづき団子祭りなどの伝統を引き継ぐとともに、交流人口の拡大を目的とした新たな賑わいイベントの創出。
- ・定期的な地域内の草刈り、花の植栽、清掃等の環境美化活動。
- ・郷土芸能の継承
- ・中高生と地域住民、公民館等による多世代交流活動を推進し、地域コミュニティの継続と活性化を推進。

5 小佐野地区

地区の概要

区 分	小佐野地区	全市に占める割合 (全市)
面 積	約 45km ²	約 10% (440.34km ²)
令和2年人口	7,532 人	23.3% (32,374 人)
対平成22年減少率	△ 9.4%	(△ 19.4%)
地域高齢化率	40.7%	(39.8%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



小佐野地区 / 野田町 1～5 丁目、定内町 1～4 丁目、甲子町 第 11～12 地割・第 14～16 地割、小佐野町 1～4 丁目、小川町 1～5 丁目、桜木町 1～2 丁目

地区の特色

小佐野地区は公共機関や小学校、駅、金融機関、病院、介護施設などがあり、生活上の利便性が高く、製鉄所の発展とともに都市化が急速に進んだ地域です。

管内には 19 の町内会があり、介護予防の取組や防犯活動等地域活動が活発に行われ、良好なコミュニティが形成されているほか、住民が主体となり生活支援サービスを提供する地域包括ケアシステムの基盤となる仕組みが構築されています。

一方、高齢化の進行に加え、独居高齢者の増加によって、地域活動の衰退や地域からの孤立等将来に不安を抱える地域住民も多い状況です。

その他、伝統芸能である小川鹿踊りは小・中学生によって継承され、地区行事等で演舞を披露する等地域の文化資源として大切に守り続けられています。また、ホタルが生息する「ワッカラ淵」は、子どもたちの自然学習の場となっており、歴史ある伝統や豊かな自然環境も地域の特色の一つとなっています。

地域の主要な課題

- ・見守り体制の強化
- ・高齢者の居場所づくり
- ・住民同士の良好な関係づくり
- ・環境保全活動の維持・継続
- ・伝統芸能（小川鹿踊り）の継承
- ・災害時要援護者への支援体制構築

基本方針

地域とのつながりを大切にし、
誰もが暮らし続けたいと思えるまち

基本目標

全ての人が安心して暮らせるまち

地域による取組（自助）

- ・積極的な町内会活動への参加
- ・健康寿命延伸のための自主的取組（いきいき 100 歳体操や各種サロン活動への参加）
- ・近隣、心配な世帯への声掛け、さり気ない見守り

協働による取組（互助・共助）

- ・住民主体の生活支援サービス（買い物代行、ごみ捨て、サロン活動）の提供
- ・地域会議を本部とした小学生の見守り活動の実施
- ・町内会による見守りネットワークの構築
- ・自主防災組織の結成

行政による取組（公助）

- ・地区センター会議の開催による地域の福祉的課題解決に向けた取組
- ・後継不足に悩む町内会の再編化等活動継続支援
- ・いきいき 100 歳体操普及のための活動支援
- ・生活支援コーディネーターと連携した地域課題の抽出
- ・専門的見守りの実施及び状況に応じた支援
- ・他地域との交流を促進するためのイベントの企画

多世代の参画による地域活動

- ・多世代が参加し、交流機会を創出するための餅つき大会、盆踊り、賑わいイベントなど新たな地区行事の実施。
- ・町内会独自の避難訓練の実施
- ・公園や河川の定期的な清掃、花の植栽などの環境美化活動
- ・ゲンジボタルの生息地を守るための自然環境保全の取組
- ・伝統芸能（小川鹿踊り）に触れる機会の創出

6 鵜住居地区

地区の概要

区 分	鵜住居地区	全市に占める割合 (全市)
面 積	約 64km ²	約 15% (440.34km ²)
令和2年人口	3,779人	11.7% (32,374人)
対平成22年減少率	△ 43.2%	(△ 19.4%)
地域高齢化率	38.1%	(39.8%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



鵜住居地区 / 鵜住居町第1～30地割・1～5丁目、
両石町第1～5地割、片岸町第1～10地割、箱
崎町第1～13地割

地区の特色

鵜住居地区は、鵜住居町、両石町、片岸町、箱崎町の4つの区域で構成され、海・山・川に恵まれた自然豊かな地区です。東日本大震災以前は、6千人余りの人口の中で、自然環境を生かした第一次産業、スーパー等の商店、金融機関、自動車関連企業等の第三次産業が営まれていました。

東日本大震災により鵜住居地区は、市内で最大の被害がありましたが、様々な公共施設整備が行われ、復興公営住宅建設や宅地造成、小中学校・幼稚園、三陸縦貫自動車道、釜石鵜住居復興スタジアム、うのすまい・トモス、根浜海岸観光施設などが完成しました。

産業面では、基幹産業である漁業は水揚げ量の減少や担い手不足、事業所の廃業等による買い物環境悪化の課題がある一方、高速交通網の整備に伴う企業立地や既存観光資源と新たな各種施設を活用した観光振興が進められています。

生活面では、震災前から町内会活動や地域でのスクールガード、高齢者の見守り活動が活発に行われていましたが、震災による人口減少と高齢化による地域コミュニティ力の低下が懸念されており、誰もが安心して暮らせるまちづくりが求められています。

地域の主要な課題

- ・地域コミュニティ力の低下
- ・高齢者対策（健康づくり、居場所づくり、見守り体制の構築）
- ・災害発生時の避難体制構築

基本方針

住民がいきいきと元気に安心して暮らせるまち

基本目標

- ・ 多様な住民による地域活動と健康づくりが行われるまち
- ・ 誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるまち

地域による取組（自助）

- ・ 町内会活動への参加、世代間交流の促進
- ・ 地域資源の再認識
- ・ 健康・居場所づくり活動、認知症サポーター養成講座への参加
- ・ 隣近所への声掛け、見守り
- ・ 避難訓練参加（避難場所、避難時持出品の確認）

協働による取組（互助・共助）

- ・ 各種町内会行事の開催
- ・ 地域イベントへの協力（環境整備、公民館まつり、郷土芸能、盆野球、盆踊り、ひとつの街など）
- ・ 地域ごとの見守り体制の構築（認知症高齢者、災害時避難行動要支援者）
- ・ 自主活動グループ行事の開催
- ・ 社会福祉協議会、NPO 等との連携による復興住宅住民の見守り

行政による取組（公助）

- ・ 地域課題解決に向けた事業実施や協力
- ・ いきいき 100 歳体操など健康づくり活動への支援
- ・ 要支援・要介護認定者世帯のケア
- ・ 妊産婦、乳幼児など子育て世帯のケア
- ・ 認知症サポーター養成講座の開催
- ・ 災害時の避難者支援、情報提供

多世代の参画による地域活動

- ・ 鵜住居公民館まつり
- ・ 各種郷土芸能活動、盆野球、盆踊り
- ・ 地域清掃活動、花いっぱい運動
- ・ 認知症カフェ（ともすカフェ）
- ・ 根浜海あそび、昔あそび交流会、そば打ち体験
- ・ ひとつの街

7 栗橋地区

地区の概要

区 分	栗橋地区	全市に占める割合 (全市)
面 積	約 129km ²	約 29% (440.34km ²)
令和2年人口	1,127人	3.5% (32,374人)
対平成22年減少率	△ 11.3%	(△ 19.4%)
地域高齢化率	47.2%	(39.8%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



栗橋地区 / 橋野町第1～43地割、栗林町第1～24地割

地区の特色

栗橋地区は世界遺産登録された橋野鉄鉱山をはじめとした豊富な歴史的資産に囲まれた農林業を基幹産業とした山村地域で、少子高齢化と後継者不足に悩まされながら、山里の生活文化を現代に継承する地域です。

沿岸部に近い栗林町は、東日本大震災後、沿岸部からの移住者によって人口の増加がみられ、地域イベントの実施などにより新たなコミュニティの構築に向けた活動が行われています。

一方で橋野町は、少子高齢化が進み集落によっては住民の過半数が高齢者という地域もありコミュニティの維持、活力の向上が喫緊の課題となっています。県外からも多くの観光客が訪れる橋野鉄鉱山を軸に地元の産地直売所などを会場とした地域おこしイベントを開催するなど、交流人口の増加とコミュニティの活性化に取り組んでいます。

地域の主要な課題

- ・人口減少と少子高齢化
- ・地域コミュニティの維持継続
- ・災害等に対する安心・安全の確保
- ・生活環境の整備
- ・公共交通の充実
- ・野生鳥獣の被害対策

基本方針

人がつながり支えあい笑顔あふれるまちづくり

基本目標

地域に誇りを持ち
安心して暮らすことができるまち

地域による取組（自助）

- ・世代間の交流機会の創出、地域行事の運営
- ・文化財や史跡、郷土芸能の保護伝承
- ・地域清掃、花壇整備などの環境美化活動
- ・地域のきずなを生かした見守り体制づくり
- ・避難訓練の実施、自主防災組織の運営
- ・グリーンツーリズムなどによる地域交流
- ・どんぐり広場を核とした農業振興

協働による取組（互助・共助）

- ・コミュニティ維持、活性化の場づくり
- ・住民同士の見守り、支え合いの体制づくり
- ・地域互助システムの構築と支援
- ・保育、学童、学校、地域が連携した子育て支援
- ・災害時要支援者避難支援
- ・防災啓発活動の推進
- ・地域資源、地域の魅力発信

行政による取組（公助）

- ・子育て世代や高齢世帯に対する相談支援
- ・集会所、公民館など公共施設の充実
- ・公民館事業など多彩なイベントの提供
- ・生活習慣病予防対策など健康づくりの推進
- ・健康づくり、認知症、子育てに関する学習機会の提供
- ・防災に係る学習機会の提供

多世代の参画による地域活動

- ・さんあいまつり、栗林町納涼大会、栗林食の文化祭
- ・はしの四季まつり
- ・郷土芸能伝承活動
- ・避難訓練
- ・橋野鉄鉱山清掃活動、育樹祭

8 唐丹地区

地区の概要

区 分	唐丹地区	全市に占める割合 (全市)
面 積	約 81km ²	約 18% (440.34km ²)
令和2年人口	1,577人	4.9% (32,374人)
対平成22年減少率	△ 25.7%	(△ 19.4%)
地域高齢化率	46.9%	(39.8%)

※各年9月末日現在の住民基本台帳



唐丹地区 / 花露辺、本郷、大曾根、桜峠、小白浜、片岸、川目の一部、山谷、下荒川、荒川、上荒川、向、大石、屋形

地区の特色

唐丹地区は、海・山・川に隣接した7つの集落から形成されています。

唐丹町の人口は昭和30年の釜石市との合併当時には4,000人を超えていましたが、現在は約1,600人となっています。主要産業である漁業は、東日本大震災の被災の影響や近年の水揚げ量の減少、担い手不足などから従事者が減少しています。

東日本大震災で甚大な被害を受けましたが、避難生活や復旧・復興の過程において、住民相互の支え合い・助け合いといった地域のコミュニティが何よりも大きな力となりました。復興事業により、漁港や新しい小中学校、住宅の整備が進んだほか、三陸沿岸道路の開通で市街地などへの往来が便利になった一方、依然として地区の高齢化は進行しており、住み良い持続可能なまちづくりが求められています。

また、唐丹には300年以上の歴史をもつ「釜石さくらまつり」のほか、多彩な行事や芸能があり、それらが育まれた背景にはかつて伊達藩と南部藩が交流していた唐丹ならではの歴史があります。

地域の主要な課題

- ・地域コミュニティの維持・継続
- ・人口・世帯の減少と少子高齢化（集落維持・児童生徒数の減少・単身高齢者の増加）
- ・水産業の振興（水揚げ量の減少・漁協組合員の減少）
- ・耕作放棄地の増加
- ・被災跡地の未利用
- ・交通弱者（買い物弱者）への対応

基本方針

住み良い唐丹づくり

基本目標

住民が、安心安全で
いきいきと暮らすことができるまち

地域による取組（自助）

- ・ 隣近所との交流（あいさつ・声掛け・見守り）
- ・ 町内会活動、地域交流行事等への積極的な参加
- ・ 健康寿命を延ばすため、個々が健康づくりに取り組む（健康教室・サロン活動への参加など）
- ・ 地域公共交通の利用

協働による取組（互助・共助）

- ・ 各団体活動の継続（担い手育成・役割分担）
- ・ コミュニティ形成のための事業の実施（地域交流行事・サロン活動・環境整備活動など）
- ・ 子ども・高齢者の見守りの実施
- ・ 災害時要援護者の支援
- ・ 郷土芸能・行事の継承
- ・ 車を持たない高齢者等の移動支援（インフォーマル）

行政による取組（公助）

- ・ 地域課題の抽出・解決に向けた取組
- ・ 多様なコミュニティ参画機会の提供
（公民館事業の実施、団体・グループ等の活動支援、地域交流行事・活動の支援・情報提供）
- ・ 地域人材の発掘（ものづくり指導者・地域リーダー）
- ・ 住民の健康づくりをサポート
- ・ 災害時の避難者対応など
- ・ 地域公共交通の維持運用
- ・ 地域資源の活用
- ・ 空き家・公営住宅の利活用推進

多世代の参画による地域活動

- ・ 地域行事の継承（釜石さくらまつり・小正月行事・夏祭りなど）
- ・ 地域交流行事の継承（唐丹夢あかり・唐丹の日・スカットボール大会など）
- ・ 定期的な海岸や河川などの清掃・稚魚放流、花の植栽などの環境美化活動
- ・ 郷土芸能の継承